

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2190200085		
法人名	NPO法人だいこんの花		
事業所名	NPO小規模多機能型居宅介護だいこんの花		
所在地	岐阜県関市西神野605番地1		
自己評価作成日	平成26年12月12日	評価結果市町村受理日	平成27年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2014_021_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2190200085-00&amp;PrEfCd=21&amp;VerSiOnCd=021">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2014_021_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2190200085-00&amp;PrEfCd=21&amp;VerSiOnCd=021</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成27年1月17日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然のなかで地域の人の力を借り、協力していただき地場で採れた米や野菜を沢山と料理を食べていただくよう皆で工夫しています。又家庭的な雰囲気や穏やかな場面を沢山とりいれて行きます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

小規模の特性を活かし、管理者・職員は、住み慣れた環境、見慣れた風景の中で、馴染みの職員の送迎で、一日一緒に安心して過ごしてほしいと、考えている。職員は真心を大切に、穏やかに接し、家族とも気楽に相談や意向が言いやすい関係を作っている。隣接する地域交流センターは地域の憩いの場であり、事業所とも行き来し、顔見知りと話す機会を作り、地域とのつながりを大切に考えている。利用者は職員と日中はおしゃべりや笑うことで楽しみ、時には泊りで旅行気分もできる利用を、介護計画に工夫している。長年勤務する職員が多く、資格取得に望み、事業所のサービスの質の向上、職員の人材育成に努力している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に小規模多機能に、ふさわしい態度で実践につなげる努力をしている	法人の理念を基に、小規模独自の理念を作り、職員の真心を利用者に伝えたいと、日々努力している。利用者一人ひとりに合った声かけや接し方に努め、理念に沿ったケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事には民生委員さん、交流センターに通う地域の方々に参加してもらう、また情報を得て、事業所や利用者の方が参加出来る行事や、文化祭への作品の展示や見学を行い交流をはかっている	隣接する交流センターは住民の憩いの場であり、住民・利用者で行き来している。事業所の行事に参加を呼びかけ協力を得ている。地域の文化祭に作品を出したり、運動会に招かれたり、小学生の訪問も受けたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	関市のキャラバンメイトの指導者として地域の理解を深める活動をしている、小中学校の福祉に関する授業には協力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価の結果は、運営推進会議で口頭で報告し、利用者の声、家族の声を聞き真摯に受け止め改善できるように職員のミーティング等で周知して次回につなげる様に努力している	家族に毎回書面で案内し、内容を連絡帳で報告をしている。グループホーム・小規模と合同で開催しているが、独自の時間を設け話合っている。メンバーから職員の言葉に心を痛めた事例を受け、全職員で接遇の学習をし直し、報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回市の職員に出席してもらう事で、実情を把握してもらい、理解をってもらうよう努めている 機会があるときは現状を伝えている	市担当者から、住民からの利用の相談内容などを聞き、事業所の実態の話をしている。介護相談員を受け入れ協力している。担当者と話ず機会を作り相談しやすい関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に於いては色々な状況の場面に会ったたびに検討し、拘束しない介護が出来る様に考えている。家族が拘束を求めた時には、家族に協力してしない方向にすすめている。	日常のケアの中で、ベット柵やオムツの当て方など拘束にならないか、常に問題意識を持ち職員と検討している。家族からの相談にも、事業所では拘束しないことを話合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を通じて学び、事業所内では、職員同士お互い注意を払っている。利用者の自宅の様子は、家族と利用者の様子を利用時に観察して状況の把握につとめている。異常を察知した場合はすみやかに対応している		

NPO小規模多機能型居宅介護だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修において学ぶ機会は少しずつ増えているもののまだまだと思える、現在は必要性がまだない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回の面接時、契約時に納得行く説明をおこなっている、又利用開始後にも不明な点はいつでも訊ねてもらえるように説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、通常の利用の送迎時に疑問な点は意見をいつでも聞く体制である。電話による対応もしている	送迎時など家族と直接話す機会をつくり、直接意見を聞くことが多い。また、連絡帳で近況報告や家族の意見を聞き連携を図っている。利用者個別の相談も多く、送迎車の停車位置の意見を聞き改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング、毎日の申し送りのミーティングに意見を聞き行うに相応しい内容は代表等に伝え協議し反映していく方針でいる。	管理者は時間を惜しまず常に聞く姿勢でいる。職員も気軽に些細なことも話している。居室の配置・ベランダを居室に改修など、職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入社時の雇用契約では、十分に説明を行い、賞与時は、査定を適切に行い支払がなされている。労働時間、休みは出来るだけ皆の希望に沿う努力をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を推進している、内部研修はミーティング時に必要な研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時などに他事業者の方と交流して、意見や、情報交換する機会を、多くとよう推進している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お話しする場や、時間を多く過ごすことで、除々にきずいて行ける関係を大切にしている。そのうえで自然な信頼関係が出来ると考えている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面接時、契約時に納得行く説明をおこなっている、又利用開始後にも不明な点はいつでも訊ねてもらえるように説明している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当サービスの内容説明時に他事業のサービスも対等に判断してもらえるよう、情報を提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の気持ちになって、家族が困っていることを察知して行ける様心がけるとともに、信頼関係に於いて、本心をあかしてもらえる関係を目指している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちになって常に過ごせるような関係づくりが出来ると常に心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を聞き、小規模の利用を通して、出来る範囲は支援している。	送迎時に、利用者の希望で馴染みの友人宅や、買い物に寄るなど柔軟に対応し望みを叶えている。夜間のお迎えも希望に合わせて対応している。居間の座席の工夫、送迎時刻を配慮し、車内で馴染みの人と話せる工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係を把握した上での支援に努めている、座る場所や送迎時の車や座る位置にも考慮している		

NPO小規模多機能型居宅介護だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に変わった人であっても、必要に応じ、又必要ではなくても、面会や家族からの電話などで支援も行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	法人の理念を基に小規模多機能に、ふさわしい態度で実践につなげる努力をしている	担当職員や他の職員も勤続年数が長く、馴染みの関係があり、普段のかかわりの中で、聞きやすい、話しやすい姿勢で把握している。入浴時の表情など、変化を見逃さず職員同士で引き継いで把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやモニタリングを通して行う		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントやモニタリングを通して行う		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの作成、現場では、ケアプランや、個別援助計画を作成し、日々の記録をつけることで次回に活かしている	担当職員が気づきを記録し、介護日誌を基にプランの変化を見て原案を作っている。医師・家族の意見を基に職員会議で検討し、ケアマネジャーが作成している。計画表に実践記録と照らしてみてもプランの変更を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々観察、記録して、読み取ること、申し送りで、共有して活かす努力をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況を踏まえ個々を大切にすること、家族を支援することで多機能的に支援している		

NPO小規模多機能型居宅介護だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者本人を知ることで支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、家族の希望するところでいただき、必要な情報は、かかりつけ医や家族に提供している。家族が受診出来ない時等はお手伝いをしている	かかりつけ医の受診を継続している。家族の都合や状態に応じて、受診代行や家族に同行している。泊まりの時に訪問診療を受ける人もいる。日常は看護師がかかりつけ医と連携をとり、急な発熱など家族と相談しながら適切に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師とのかかわりを大切にして、情報を共有して相談しながら行っている。医療面は指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員とは、必要に応じ連絡、相談をおこなっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	小規模の利用を通して、出来る範囲は支援している。	契約時に事業所の方針として看取りはしないが、できる範囲の支援を説明している。訪問看護と連携しながら毎日通いを利用し褥瘡が改善した事例もある。今後、重度化に備え、事業所の特性を活かし、訪問サービス・食事サービスなど利用者の希望に合わせて支援をする体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の協力の下、状態把握を適切につかむ訓練をし、救急時のマニュアルもある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行うこと	併設された法人施設と合同で避難訓練を実施している。独自に夜間想定を実施し、隣の商店に避難場所や農業センターの職員の協力を依頼している。事業所が二階に位置し、夜間想定訓練で隣接する三事業所の連携について、考えている。	二階からの誘導方法や地域住民の協力を再度検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で情報を共有して対応している	利用者一人ひとりの尊厳を損ねない声かけを注意し合っている。特にトイレでの介助を拒む利用者には、見守りや声かけに工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々かかわること、個々の特徴をよくとらえて、働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	聞き取れることは、聞き取りそれまでの暮らしの中から把握して支援につとめている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後などに、化粧する場を提供、美容室への送迎や、また移動美容院では、毛染めを進めたり、カットの時期の見極めをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みを大切にして食事を選びを行っている 準備は、下ごしらえをして頂くこと片づけは手伝ってもらえるところはお願いしている	利用者の好みを尋ねながら献立を立てている。季節の食材や頂き物を利用し、里芋の皮むきなど下ごしらえを手伝っている。恵方巻き、ぜんざいなどを一緒に作っている。職員は食卓を共にし話題を引き出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にとっての必要な情報をとって、必要な食事支援を考えている、が事業所内で出来ることの限度があるためその部分に於いては家族等との話し合いで支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は個々に応じたケアを必ず行っている		

NPO小規模多機能型居宅介護だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用、個々の特徴をとらえて支援している	失敗をなくすよう利用者の排泄パターンを知り、声かけをしながらトイレ誘導している。家族からパッドの使い方の相談を受け、自宅と事業所とのパターンを話し合い、本人に適したパッドを工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表、家族からの情報や、個人の記録を活用して必要な飲食物、薬での予防を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声かけにてタイミングを合わせ、日にちにおいては、予定日ではなくても本人の希望で毎日でもしてもらい、汚染時などもそのつど対応している。	脱衣場が手狭なので広い隣室を利用している。保温を保つガウンを工夫し使用している。慌てず、ゆっくり、本人が満足できる入浴になるよう努めている。入浴剤や柚子湯などで季節感を作り、職員とゆっくり話しながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望でベッドや、ソファを使用して休息をとってもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	家族や病院からの情報をしっかり管理し利用者に提供している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの趣味や興味のあることを聞き出し、又日常的に把握している事柄から、一人一人にレクを通じたり、会話などをして支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩に出かけたい希望をとって行う事や、送迎の行き帰りに寄りたところへ寄る、又興味のあるところへこちら側から進めて見に行く、立ち寄ることをしている。	事業所の定例行事で初詣や花見に出かけている。個別には送迎時など遠回りしてそばの花を見に行ったり、知人宅に行ったり、買い物したりと利用者の希望に合わせている。日常は気候や体調に合わせて、随時出かけている。	



NPO小規模多機能型居宅介護だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や、行き帰りに必要な買い物などの時は、支援をおこなっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙は本人が望むように支援し、又家族に話したいことがありそうな時は、電話で話さないかいうように勧めることもある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用、玄関には花があるときは飾ること、写真や、飾りで季節感を取り入れ、電気などは刺激にならないようにし温度も適温になるよう注意している	「だいこん稲荷」の鳥居を手づくりして、初詣の雰囲気になっている。テーブル・ソファを適宜に配置し、利用者同志が気楽におしゃべりができ、仲間づくりができる工夫をしている。花づくりの好きな利用者が毎日花を生けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった人たち同士が、一緒にいられるような配慮、一人でいたい人にはその空間を用意している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人だけのものではないためすべてを好みのものにすることは、していないが、泊まり時の寝具やねまきは個人の好みになっている。又マッサージ機を自宅より持ち込むこともしている。	利用者の意向・症状に合わせて、居室を選んでいる。泊まりは利用期間にあわせ、時計、日用品・常備薬、孫から貰った年賀状を持参している。生活パターンを重視して居心地よくしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりとまでは行かないが、できるだけ自分でトイレの場所がわかるようになどしている		